

緑がぜ風

書：3C 佐野瑞歩（書道部）

2022年12月18日発行

No.52

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】https://www.waseda-honjo.jp

R

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨



題名がアルファベット一文字で、「なんのこっちゃ？」と思われたい方がいっぱいいるかもしれません。R

（アール）とは、New Zealandオークランド大学のRoss先生とRobert先生が1993年に発表したオープンソースの統計解析言語です。

数値データの分析に際し、多くの場合私たちはExcelを使います。ExcelはGUI (graphical user interface) 環境であり、通常PCを購入するとMicrosoft Officeのアプリとして付随してくるため、私たちにとって身近で使いやすいソフトです。以前はヒストグラムを描くのさえやっかいでしたが、近年は分析ツールも整備され、検定や回帰分析もできるようになりました。

一方のRはCLI (character user interface) であり、consoleという飾り気のない無骨な画面にいちいち命令を打ち込まなくてはなりません。しかし、オープンソースのため、発表以来世界中の学者が使いやすいようにパッケージを開発し、今やいろいろなことができるようになっていきます。高度な統計解析に対応しにくい点からExcelによる処理は本格的な研究には向かないとされています。Excelはあくまでも表計算ソフトであり、大学以降の研究では、R、SAS、SPSSなどの統計解析言語・ソフトを基本にします。SASやSPSSは高額ですが、Rはフリーです。現1年生から新指導要領が適用され、本庄学院も新カリキュラムとなりました。情報科では今まで以上にプログラミングについて必要性が強調されています。一般的な高校では、言語としてPython（パイソン）やJavaScriptを扱う学校がほとんどだと思います。以前であれば、情報科は大学入試共通テストの科目でなかったため、スルーしていた進学校も多かったです。2025年度共通テストから情報Iも取り上げられることになったため、これからはプログラミング言語を扱う学校も増えると思います。

本庄学院では、情報科において以前よりHTMLやjQueryを中心としたWeb作成を通して言語に触れてきた。この間、いろいろな学部から高校時代にRに触れておくことは望ましい」という意見を受け、3年前からRを扱うこととしました。それ以前は3年時の選択科目や大久保山学で限られた生徒に対して扱

ていましたが、このときから、理解しているかどうかは別として、全生徒がRに接しています。進学校にはない、附属としてのアドバンテージになると考えています。

Rには驚くほど高度なグラフ表現機能が備わっています。例えば、左の例をご覧ください。私が担当している3年時大久保山学「大久保山に住む人って、どんな人？」で2017年から履修者から集めているアンケートの質問、「本庄学院の悪いところ」の回答における頻出ワードとは、文学作品や記事、ネット上の書き込みなどのテキスト情報から頻出単語を抽出し、出現数の多い順に大きくなるように任意に配置した図です。「良い点」として図1を見た場合、「悪い点」として図2を見た場合、なんとく生徒の回答の内容が想像できると感じます。「できる」「良い点」における最頻出単語であることは面白いですね。本庄学院の特徴を表しているかもしれません。図2における「体育館」や「移動は、このアンケートを2017年より実施しているため、まだ新体育館がなかった時代における移動の不満が入っていることによりです。



図1.「本庄学院の良いところ」に対する回答のワードクラウド



図2.「本庄学院の悪いところ」に対する回答のワードクラウド

この図自体は、研究成果として使えるものではないかもしれませんが、ポスターや記事などにおいて効果的なイラストとして使えるかもしれません。この図は楕円ですが、星型や人型など好きな形にすることもできます。

卒業生に、附属校として進学校出身者になんて何を持たせられるか？これは、本庄学院が常に考えなくてはならない問題です。ここでは、私が担当している情報科の取り組みの一部を紹介いたします。もう少し3年生は本庄学院を卒業し、学部へ進学します。漫然と進学するのではなく、「自分が本庄学院で身につけたものは何だろうか？」と一度振り返って欲しいと思います。そして、そのことに誇りを持って、大学生活を送って欲しいと思います。

稲稜祭を終えて

稲稜祭実行委員長 3年 木原 吉生



我々稲稜祭実行委員は2日間の本番に向けて半年間、日々準備してまいりました。

今年は約三年振りに対面での実施ということでしたが我々の世代は新型コロナウィルスの蔓延により、対面での経験やノウハウがまったくない中でスタートでした。そのため対面での感染症対策の制定や、校舎内企画のルールの制定など、去年の稲稜祭実行委員でも経験がない業務がたくさんあり、円滑に作業を進めるというのが困難を極めるものでした。そんななかでも実行委員では話し合いを行い、なんとか稲稜祭を成功に収めることができました。様々な場面で私は委員会の顔として紹介されていますが、真の立役者は私などではなく、日々熱意を持って、活動した実行委員1人1人だと考えております。

実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

さて、今年の稲稜祭のスローガンは「復興」でした。これには、3年ぶりの対面での稲稜祭ができた「復興」や我々の青春が帰ってきた「復興」の2つの意味が込められています。個人的な考えになりますが、「青春」というものは高校生を構成する一つの要素であると考えています。高校生の青春は3年間しかありません。そのおおよそを3年生はコロナウィルスによって奪われてしまいました。青春の1ページとなるような様々な学校行事が中止、あるいは規模縮小となっていく、多くの学院生がやるせない悲しみを感じていたと思います。しかし、今年は先生方や事務員の甚大なご助力があつて無事、対面での稲稜祭を行うことができました。高校生の3年間という時間を取り戻すことはできませんが、みなさんが本来得る筈だった青春が少しでも、取り戻すお手

伝いができたのなら実行委員長として大変嬉しく思っています。

今回の稲稜祭が無事成功できたことは早稲田大学本庄高等学院にとって非常に重要なものであると考えております。それはあと一年稲稜祭の通常開催が遅れていたら先輩方が築いた伝統などが消えてしまうのではないかと危惧していたからです。昨今では紺碧や校歌を歌える生徒が非常に少なくなっていると感じています。これは一年生の時の早慶戦観戦などの様々な「早稲田」を感じることができ、行事が中止になってしまったことが原因だと考えております。このままでは我々が預かってきたこの伝統が、過去のものになってしまふのではないかと昔から思っていました。しかしながら今回、こうして対面での稲稜祭が実行でき、後夜祭では紺碧の縦揺れや校歌斉唱などを行うことができました。私はあの場面を今でも鮮明に覚えていますし、生涯忘れることはないでしょう。それほどまでに美しい景色でしたし、何よりこの伝統を後輩達に継承できたことが非常に嬉しかったからです。我々が繋いできた伝統が、ここで途切れることなく後世へ繋いでいく。その橋渡しをすることができて非常に光栄で幸せな体験でした。



ある出版社から、「科学ネタ」で顔が60個ほど書けませんか、と相談が来ます。はい、書けますよって言ったのだが、いざ文章にすると理屈っぽくなつてどや顔どころで

はなくなった。原稿を書きながら、漫才師が司会をしていたラジオ番組に、科学の話をしてくれと頼まれ出演したことを思い出した。始まる前に短い打ち合わせがあり、その日の段取りと、世間話を本番にのぞいた。本番では、私の話したいことを的確な話術で引き出してくださり、話が小難しくなりつつになると解説を加え、ほんの少し話しただけの私の住む地域の話題で場を和ませ、とても気持ちよく話を終えることができた。終了後に、すごい技術をお持ちですね、と率直な気持ちを伝えて別れたのだが、あの方のすばらしさになって思っている。

ある時、読んでいた本に、スポーツ選手に必要な資質と能力が書かれていた。

1. 技術・知識
2. 予測能力
3. 計画能力
4. 感情コントロール

なるほどと思った。今思えば、あの漫才師の方は、番組構成段階で、教員である私がどんな話をするかを予測し、その話への対応法を事前に考え本番に臨み、話者の気を悪くしないような気遣いをしつつ、リスナーにわかりやすい話に修正していた。そして最後には、リスナーにも話者に満足感を与え、また聞きたい、また話したいと思わせ番組を締めくくっていた。

どの分野でも、その職を極めた人と出会うことは何とも言いえない感動や学びがある。コロナ禍で人と出会う機会がめっきり減ってしまったが、人生を楽しむために、内にこもることなく、新たな出会いを探せる以前のような穏やかな日常が1日でも早く戻ってほしい。ヒョウグな場所の木漏れ日の中で、コーヒーを飲みながらそう思うのである。（TK）

修学旅行を振り返って

3年生は10月に広島・神戸・北陸・関西の3コースに別れて修学旅行へ行きました。

修学旅行の意味

修学旅行広島神戸コース実行委員長

3年D組 新宅 航太

「旅行はどこに行くかより、誰と行くかだ」。これは、修学旅行一週間前の結団式の際、僕が話した言葉だ。今年は新型コロナウイルスの影響がまだ残っており、例年のように海外に行き、日本でできない体験をすることはかなわなかった。しかし、昨年一昨年と中止になったなかで、幸いにも今年は制限がありながら開催できた。卒業を半年後に控えるなかで学校生活と一緒に過ごした仲間たちと思い出をつくることができたことに、簡単には言い表せないほどの喜びを感じた。

僕たちが参加した広島神戸コースは初日の広島から最終日の京都まで、見どころがたくさんあった。特に印象に残っているのは二日目に訪れた原爆ドームと三日目に訪れた神戸だ。原爆ドームは写真でしか見たことがなく、大きな目立つ建物を想像していた。だが、実際に行ってみるとドームの周りにはマンションなどが建ち、思ったよりも小さく見えた。原爆ドームを近くで見た後は、周辺の施設もガイドの方の話を聞きながら訪れることで、それぞれの碑や鐘などの持つ意味を知ることができた。個人の旅行では、説明を聞きながら訪れることは簡単で、できることではない。修学旅行という場で平和や歴史の継承について学べたことは非常に貴重な体験だった。

神戸では、港町として発展してきた街の雰囲気を楽しむことができた。海と山に挟まれた狭い地域にさまざまな文化が詰まっています。神戸という街が多様な人々によって形作られてきたことを実感できた。中華街や異人館では日本にないがどこか違う国にいるような、異国情緒を味わうことができたことが最も印象に残っている。異人館は西洋風の部屋で知られているが、神戸港や中華街など、他の神戸の観光スポットなどに比べると、自由行動で訪れた班は少な感じた。だが、一見すれば普通の家に見える外見からは想像できないほどに各部屋の展示物は綺麗だったことが今でも忘れられない。もし、来年も神戸に行くコースが設定されていればぜひ行ってみてほしい。



を一生忘れることはないでしょう。新型コロナウイルスは未だ断続的に流行しており、完全な収束の兆しが見えませんが、来年のこの時期もまた海外渡航に制限がかかっている可能性もあります。しかし、今回の修学旅行を通して、やはり修学旅行は高校生活で欠かしてはならないイベントであると改めて思いました。来年度以降も修学旅行が、願わくば学院本来の制限のない修学旅行が、多くの学院生の思い出の1ページを彩ることを願っています。

『楽しもうぜ!』

関西コース実行委員長

3年G組 横江 暁

私たち三年生の高校生活は常にコロナによって制限されてきた。入学当初からオンラインでの授業が続き、初めて登校できたのは六月の終わりのことだった。学校の最高学年であるのにも関わらず、学校の伝統を一度も満足に経験したことはなかった。

「コロナなんてクソ食らえだ!」

「俺らの青春を返せ!馬鹿野郎!」

思わずそんな言葉を叫びたくなるほどだった。

そんな中で決行された修学旅行。制限付きではあったが、この決定はとても嬉しいものであった。

修学旅行には麻痺的な楽しさがあると私は思う。普段学校で一緒に過ごしている戦友たちとお泊りで旅行に行くのだ。楽しいのが約束されている。私は中学生のときから体育祭より、芸術祭よりなものにより修学旅行が好きだった。朝の移動中にはワクワクしながら友人と会話をはずませ、昼になれば観光地を巡る。ホテルの部屋に興奮して、夜には教師の足音に耳をすまして好きな人の話をするのだ。こんなこと人生で何回も経験できることであろうか。これは青春の特権である。

今回の修学旅行で、委員長として私が掲げた目標は「仁義を重んじて三年間で一番の思い出をつくらうぜ」だった。これは建前で「三年間で一番の思い出をつくらう」と設定したのではなく、ガチのガチで「三年間で一番の思い出をつくらう」と自分自身で思っていたからである。修学旅行中も委員長だからといって特別みんなをまとめようとか、時間を厳守しようとかはなく、ただ馬鹿みたいに楽しもうとやろうと思っただけだった。実際に大阪のホテルで銀杏ボーイズを熱唱していたら、少し怒られてしまった。

修学旅行で京都に行つて初めて仏像を見た時「しつかりしなさい」と仏像に言われた。

私の好きな銀杏ボーイズの曲の一節である。仏像に「しつかりしなさい」と言われることはなかったが、私はこの修学

旅行中になにからも解放された気分だった。三年生のこの時期、本当であればやらずに済まないことは山ほどあるはずだったが、そんなものでもなくも良くなっていた。嵐山で真っ赤な一物をぶら下げながら堂々と闊歩する雄猿を見た時、その雄猿が私に「しつかりしなさい」と言っているように感じた。



魅力的な先生の紹介

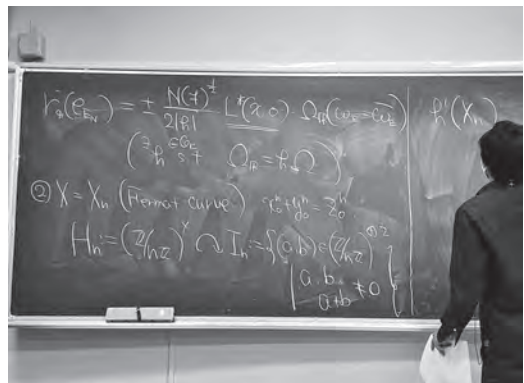
#バトン#4

根本 裕 介

イントロダクションの重要性

この緑風が配布される頃には、多くの3年生が卒論を書き終わっている頃だと思ふ。

私は現在仕事の傍ら大学院の博士課程に在籍して研究活動を行なっている。博士の学位を取得するためには博士論文を執筆し、審査に合格する必要がある。私も学院生同様、卒業するために論文を書かねばならないが、おそらく終わっていないであろう(という)ことでめでたく留年、大学院5年生である。1、2年生の皆さんは、私を反面教師にして是非計画的に卒論執筆を進めてほしい。そんな私からアドバイスを一つ(アド



バイスできる身ではないが。

論文のイントロダクション(以下、イントロ)は時間をかけて丁寧に書くこと(何なら一番時間をかけてよいかも)。どんなに良い研究成果であっても、イントロをちゃんと書いていないとおそらくその後の内容は読んでもらえずに、雑誌に投稿したところで即リジェクト(掲載拒否)である(学院の卒業論文をリジェクトされることはないかと思うが...)。また、論文のイントロは、主結果をおいしくする絶好のスパイスである。主結果が全く同じ論文であっても、イントロの書き方次第で読み手が受ける印象は随分異なる。例えば、主結果をAとする論文のイントロで、「この結果は先行研究のAを少し拡張したものです」と書くのと、「大予想であるBという問題を解くためには、Aという結果では足りない。したがって、この結果を拡張する必要がある」と書くのでは、明らかに後者の方が価値がある論文に見えるだろうか。同じ結果であっても、読み手にどう感じてもらいたいのか、またこの結果がどのような価値があるのかを簡潔に読者に伝える場所が論文のイントロである。3年生の皆さんならおわかりかと思うが、研究論文を執筆する際は大量の論文を読む必要がある。その際、真っ先に目を通すのはもちろんイントロである。すべての論文を最初から最後まで読んでいて時間は到底ないのだ、大体はイントロで何をやっていのか、そして自分の研究に利用できそうなら主結果に目を通すという作業を繰り返す。したがって、イントロで興味を持ってもらえない、何をした論文なのかがよくわからないと、たとえ結果が素晴らしきものであっても、最後まで読んでもらえないのである。それほどまでに、イントロというのは論文の中でも非常に重要な要素であると私個人は思っている。皆さんも論文のイントロを書く際は決して妥協せず、魂を込めて書いてほしい。次は地歴科の松田先生、お願いします!

各種プログラム報告

1. 「届けよう服のチカラ」プロジェクト

本庄学院は今年度、ファーストリテイリング（UNIQLO、GUを運営する会社）、国連難民高等弁務官事務所UNHCRとの連携で、世界の難民の子供たちに服を届けるプロジェクトの実施校に指定されました。現在、20名の生徒スタッフが服の回収活動をしています。本校における特徴は、募集範囲を校内に留めず、難民の存在を広く知ってもらうために、市内小学校や市役所にも協力を仰いだことです。11月14日に回収した服6525着を梱包して、世界の難民の子供たちに送りました。



2. Waseda English Kids プロジェクト

本庄学院は毎年、最大3名の留学生を受け入れ、コロナ禍でなければ姉妹校との相互訪問をするなど、国際交流の盛んな学校です。10月15日(土)、16日(日)にフリーダさん(ドイツ)・エネレルさん(モンゴル)・田さん(台湾)3名の留学生と学院生の交流を深め、また地域への貢献プログラムとして、本庄早稲田国際リサーチパークとの連携で、標記イベントを開催しました。15日は留学生と6名の学院生がヤマキ醸造で醤油づくり体験をし、早稲田の杜ミュージアム開館2周年記念イベントで「早稲田大学津軽三味線愛好会『三津巴』」の演奏を鑑賞しました。その後、翌日のリハーサルを行い、本庄セミナーハウスに宿泊しました。16日は、市内15名の小学生たちに英語によるコミュニケーションの楽しさを経験してもらうアクティビティを楽しみました。



3. ほわフェスタ 2022

2022年度は上越新幹線開業40周年記念、鉄道開業150周年の年に当たります。本庄学院は、JR本庄早稲田駅と連携し、11月13日(日)にJR本庄早稲田駅で開催される「ほわフェスタ」およびその周辺のイベントをコーディネートすることとなりました。7名の学院生(加藤愛理・金子みどり・長岡凜、吉野裕樹・浦田晃駿・久米川夏穂、青木優奈)がスタッフとして、6月から活動を行いました。ほわフェスタでは、多くのお客様がいらしやり、学院生のパフォーマンスや出店・ミニ新幹線などを楽しみました。PRポスターは山下凜花さんのデザインを元にしてあります。



4. NewZealand プログラム

本庄学院は2019年に、Education NewZealandと留学に関する協定を締結しています。その後のコロナ禍でNewZealandとの関係は進んでいませんでしたが、今年度は、いくつかのプログラムが進行しています。

7月に、NewZealand資本の、原宿にあるクッキー屋さんCookie Timeの新商品や将来戦略をNewZealandの高校生と考えるBizVenture2022に5名の学院生(木村友香・佐々木結・木下咲良・谷口明莉・進藤千歳)が参加しました。Education New Zealand、North Asia Centre of Asia-Pacific Excellenceが主催する起業アイデアソンプログラムです。プレゼンは渋谷区にあるニュージーランド大使館で行われました。開会式では、在日本ニュージーランド大使Hamish Cooper氏からお言葉をいただきました。また、閉会式では、在ニュージーランド日本大使伊藤康一氏よりお言葉をいただきました。

3月にはいよいよNewZealandの12校で短期留学プログラムが実施されます。



5. アカマツの苗プロジェクト

本庄キャンパスはアカマツの美林で有名な場所でしたが、現在その多くが松くい虫によって枯れようとしています。本庄キャンパスの豊かな樹木の環境を守るために、10月12日(水)、本庄キャンパスを管理する本庄プロジェクト推進室との連携で、アカマツの苗プロジェクトを開始しました。キャンパス内で芽を出したアカマツの苗を鉢に植え替え、栽培します。大きくなったところで、改めてキャンパス内に植え替える企画です。13名の学院生が参加しました。



6. 地域連携農業プログラム

今年度より地域連携農業プログラムがスタートしました。15名の学院生が参加しています。7月2日には、畑と放置竹林を視察しています。8月20日(土)学院生・BAM部のメンバーの半分が、実際に農産物の販売が行われている児玉こだま館直売所と神川かみかわ館直売所を実際に訪れ、販売の仕組みやどのような商品が売れ筋なのかなどの説明を受けました。その後、JAひびきのに戻り、商品開発についてのディスカッションを行いました。9月25日(日)にはJAひびきののホールで市長をお招きして、中間報告会が開催されました。



7. 地域貢献・連携プログラム

本庄学院では多くの地域との交流プログラムを実施しています。今年度もコロナ禍の中、いくつかのプログラムを開催しました。

- ・本庄市主催市民総合大学・こども大学---7月にゴハク磨き・ラジオ作り・望遠鏡づくり・茶道教室を開催しました。
- ・本庄学院主催こども科学教室---11月6日・14日に伊勢崎餅の職人をお招きし、伝統文化に触れる織物教室を開催しました。
- ・早稲田大学本庄プロジェクト推進室・本庄学院との連携、小学校総合学習支援・国連理解支援プログラム---西小・共和小で総合学習支援授業を行いました(共和小は2月予定)、中央小・秋平小・共和小で国際理解支援授業を行いました。留学生のエネルさん、田さん、フリーダさんが講師をしています。



8. Japan Super Science Fair(JSSF)2022 参加

11月1日(火)～5日(土)の日程で、立命館高校(京都府長岡京市)において標記シンポジウムが開催されました。これは世界最大規模の高校生科学シンポジウムで、対面で開催されるのは実に3年ぶりです。本庄学院から宮田苑佳・内藤千晶・伊藤倫が参加し、研究発表・ポスターセッション・課題コンペなどに取り組みしました。空気の共有感や多くの人とのコミュニケーションなど、対面の良さを再確認できたイベントでした。



9. 国際交流プログラム

コロナ禍の中、なかなか対面での交流ができませんが、いくつかのオンラインプログラムが動いています。

- ・シンガポールNational Junior Collegeとの共同研究
- ・7月の韓国Hana Academy Seoul主催、Hana International Symposium2022
- ・国際交流プロジェクト(韓国班)

韓国テジョン市のセロナム・クリスチャン・スクールの生徒と昨年に引き続き国際学術交流をオンラインで行っています。

本学院の生徒18名とセロナム校の生徒21名が参加し、日韓合同による6つの小グループが持続可能な開発目標に関するテーマで共同研究を進めています。

共同言語は英語です。月例ミーティングを重ね、中間報告会での議論をもとに、12月に予定されている最終シンポジウムで成果発表を行う予定です。

- ・オーストラリアQueensland Academy for Science Mathematics and Technologyとの共同研究

また、1月には本庄学院・愛知県立半田高等学校共同主催の国際シンポジウムAsia Academic & Cultural Sessions (AACS) 2023を開催します。

対面の動きも始まっており、2月には3年ぶりの対面でのタイ研修を実施する予定です。

10. 河川研究班の活動

5月の藤田小との合同河川調査は天候不順により中止になりましたが、10月の河川調査は実施することができました。また、他に5回の総合学習支援を実施しました。

9月3日4日の2日にわたって、3年ぶりに対面で「いい川・いい川づくりワークショップ」が代々木のオリンピック記念青少年センターで開催されました。このワークショップは国内の河川環境保護に取り組む活動を紹介し、いい取り組みを紹介するイベントです。本庄学院は図鑑「ほんじょうの川のいきもの」作成を評価され、「いい川技術賞」を受賞しました。



緑風の前身に数学の内容について書きましたので、今回は特別研究期間をどのように過ごしたかについて記したいと思います。私は昨年度はフルタイムの学生の立場でした。以前とは異なる分野の研究するため、2年間ほど準備をしていましたが、当然時間は足らず、特別研究期間の半分は本や論文を読む「お勉強」の時間に溶けてしまいました。

早く研究に入るために、効率よく勉強をする必要があり、色々と工夫をしました。研究室のゼミは全てオンライン化されていましたが、大学では最初自宅の周辺で研究をしていました。最初は近所の図書館やカフェを利用していたのですが、必ずしも席があるわけではないことや、長時間利用しにくいこともあり、コワーキングスペースの利用に落ち着きました。私の利用していた場所はオンラインの会議を行っている人も多くいました。そのため、Zoomによるゼミも気軽に行え、適度にざわわしている環境も私に合っていました。また気分転換に場所を変えたり、歩いたりすることも効果的でした。特に歩いているときは、目の前に本や論文が無い状態で考えるため、大きな流れや方針を考えることに集中できました。

意外に効果のあった勉強法は、本や論文を写経のように(全くそのままだではありませんが)書いていくことでした。論文を追えない箇所やピンとこない部分があっても、そのまま流していくことで、全体像が把握でき、きちんと読み込む段階では大局を見失わずに進むことができました。講義は受講者の理解が一定のスピードで進んでいきますが、それに近い状態を作り出すことで理解が早くなったのかもかもしれません。また週に一度のゼミ発表の際には、用意したノートを全て事前に公開するようにしていました。ノートを多数の人に見られるというプレッシャーを利用して、できる限り一般化した、論理の抜けがないものを用意することができたと思います。(資料として読みやすいと褒めていただけの嬉しかったです)ノートはWordのGoodnotesを用いました。手書きの図や式のコピペや論文の抜き出しが簡単にできるため、手間をかけずに、内容に集中することができました。

普段の生活はできるだけルーティン化して余計な事を考えなくて済むようにしていました。またゼミや研究会の前など切羽詰まった状況でない限り徹夜はせず、睡眠時間を多めにとっていました。徹夜は途中から集中力が欠如し、また生活のリズムも狂うため、長期的な目で見ると、時間的なデメリットが多いと思います。また原則日曜日はオフにして、イレギュラーなことへの対応や家族と過ごすための時間としていました。

9月末に最低限の準備が終わり、研究をスタートしたのですが、自分が考えている問題に関する知識も少なかったの、色々な人に質問をしました。数学の研究者が集まるmathoverflow(数学版Yahoo!知恵袋みたいなもの)で質問をしたり、読んでいる論文の著者へメールで質問をしたりしました。全く面識のない方ばかりでしたが、どの方もとても丁寧な返信をくださりました。メールやZoomでの議論もでき、その縁で研究会での発表にも誘っていただきました。研究会に関しても誘っていただけました。研究の一つ得ましたが、その後は行き詰まり、ひたすら予想を立てて、確かめると間違っているということが続きました。ある論文に「明示的に式を導出することが難しい」というコメントがあったため、その内容には手を出していなかったのですが、3月中旬になって駄目元で挑戦を試みました。今までの失敗で腕力だけ式変形を続けたところ、シンプルな公式を得ることができました。(この結果は今年の9月に富山で発表しました)現在はこのとき得た結果を利用して3次元多様体の不変量を拡張できないか調べています。この1年間のおかげで研究のリズムを作ることができました。このような貴重な機会をくださった学院の皆さんに心より感謝申し上げます。



太田洋平

教員コラム

木もれ目



生徒達の活躍

◆硬式野球部

・第104回全国高等学校野球選手権埼玉大会
2回戦 7月10日(日) 於熊谷公園球場
対与野高校 7-6
3回戦 7月16日(土) 於熊谷公園球場
対鷲宮高校 7-2
4回戦 7月18日(月) 於熊谷公園球場
対大宮北高校 0-3 (県ベスト32)
・令和4年度 秋季埼玉県高等学校野球大会
地区予選
1回戦 9月3日(土) 於ケイアイスタジアム
(本庄市民球場) 対上尾南高校 8-1
代表決定戦 9月9日(金) 於熊谷公園球場
对本庄第一高校 4-0
県大会
1回戦 9月17日(土) 於レジデンシャルスタジアム大宮(大宮市営球場) 対川口高校 不戦敗
・県北8校トーナメント
いずれもケイアイスタジアムにて。
1回戦 11月5日(土) 对本庄高校 14-2 (6回
コールド)
2回戦 11月12日(土) 对本庄東高校 3-5
3位決定戦 11月14日(月)
対寄居城北高校 29-2 (5回コールド)
2021年度春・2021年度秋・2022年度春に続いて、
4シーズン連続での県大会出場を果たしました。
夏の選手権大会では、応援部・プラスバンド部
のみなさまをはじめとして、さまざまな方々から
応援をいただきました。
この場を借りてお礼申し上げます。ありがとう
ございました。
秋の県大会では、たいへん残念な結果となって
しまいましたが、次の春大会では万全の体制で臨
んで参ります。

◆硬式テニス部(男女)

・埼玉県新人大大会 北部地区予選(9月9日・10日、
県大会出場分)
男子シングルス 優勝 藤崎幹大、4位 神谷優
希、6位 近藤凜空、7位 徳増尚哉、9位大西 諒
女子シングルス 優勝 中村菜花、準優勝 吉新
なつき、8位 下 花梨
男子ダブルス 優勝 神谷・藤崎
女子ダブルス 優勝 中村・吉新
・埼玉県高等学校新人大大会 個人(10月1日・2日)
男子シングルス ベスト8 藤崎幹大、ベスト64
大西 諒
女子シングルス ベスト64 吉新なつき、ベス
ト64 中村菜花
男子ダブルス ベスト32 神谷・藤崎
女子ダブルス ベスト16 中村・吉新
・埼玉県高等学校新人大大会 団体(11月3日・5日)
男子 5位
女子 5位



◆ソフトテニス部(男子)

・新人大大会 北部支部予選会
(団体戦：9/23@熊谷さくら運動公園)
2回戦 早大本庄②ー1鴻巣
3回戦 早大本庄0ー②松山
※ベスト8となり、県大会への出場権を獲得し
ました。
・県 新人大大会(団体戦：11/14@狭山智光山公園)
1回戦 早大本庄0ー③浦和南

◆ソフトテニス部(女子)

・新人大大会 北部支部予選会
(個人戦：9/17@東松山市菅庭球場)
生井美妃(2H)・杉崎里奈(1B)ペア 第1位
大庭小春(2B)・阿佐美まどか(2A)ペア ベスト16
※上記2ペアは、県大会への出場権を獲得しまし
た。
・県 新人大大会
(個人戦：11/12@狭山智光山公園)
生井・杉崎ペア ベスト32

◆サッカー部

・[第101回全国高校サッカー選手権大会埼玉県
1次トーナメント]
【2回戦】8月24日(水)@早稲田本庄G
対 鴻巣高校 1-0勝利 [得点者：阿部(2年)]
【ブロック代表決定戦】8月27日(土)@早稲田本庄G
対 庄和高校 3-0勝利 [得点者：浦川(3年)、
村瀬裕哉(3年)、与茂(3年)]
・[第101回全国高校サッカー選手権大会埼玉県
2次トーナメント]
【1回戦】10月9日(日)@熊谷スポーツ文化公園
補助陸上競技場
対 ふじみ野高校 5-1勝利 [得点者：米花
(3年)、藤田(3年)、浦川(3年)、尾藤(3年)]
【2回戦】10月15日(土)@細田学園高校G
対 立教新座高校 0-3 敗退
※2回戦で敗退となり、埼玉県ベスト32という
結果で大会を終えました。
・[高円宮杯JFAU-18サッカーリーグ2022埼玉県
北部1部]
開催期間：4/3～11/14 全14試合
結果：10勝1分3敗 リーグ優勝
※来年度、埼玉県2部リーグへ昇格となりました。

◆ラグビー部

・国体県大会
1回戦 5月28日(土)
早大本庄 27 (10/17)ー 8 (8ー0)大宮
準々決勝 6月4日(土)
慶應志木 28 (7/21)ー 7 (0/7)早大本庄
順位戦 6月8日(水)
立教新座 31 (12/19)ー 5 (0/5)早大本庄
順位戦 6月12日(日)
早大本庄 24 (17/7)ー 0 (0/0)所沢北
・第9回全国高等学校7人制ラグビーフットボール
大会埼玉県予選
1次トーナメント(Fブロック) 6月18日(土)
1回戦 早大本庄 22 (12/10)ー 0 (0/0)獨
協埼玉
決勝 早大本庄 12 (0/12)ー10 (5/5)城西川越
2次トーナメント 6月19日(日)

1回戦 川越東 26 (19/7)ー0 (0/0)早大本庄
順位戦 早大本庄 45 (26/19)ー0 (0/0)慶應
志木
・第102回全国高等学校ラグビーフットボール大
会埼玉県予選
2回戦 9月24日(土)
早大本庄 33 (14/19)ー 0 (0/0)三郷工業技術
3回戦 10月10日(祝)
城西川越 24 (0/24)ー 21 (21/0)早大本庄
春以来、「前に出るディフェンス」を合言葉に厳
しい練習を積んできた丸橋組でしたが、最後の大会
の3回戦、前半は完全にこちらのペースで試合
を運べたものの、後半に入って形勢が逆転し、昨
シーズン同様、3点差で涙を飲みました。怪我等
で出場の叶わなかった3年生もいましたが、主将
の丸橋怜央さん(3G)をはじめとするすべての選
手、マネージャー達のこれまでの努力を讀えたい
と思います。また、応援部の皆様には、今年もま
た、心のこもった激励をいただき、どうも有難う
ございました。12月中旬からは和田弘都さん(2D)
率いる新チームの新人戦が始まります。あらため
て応援よろしくをお願い致します。皆さん、ラグビ
ー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味が
ある人は是非、グラウンドへ見学に来て下さい!!部
員一同お待ちしております!!

◆男子バスケットボール部

・県北選手権大会
8月18日 会場：熊谷市民 vs熊谷農業 ○87-27
8月19日 会場：小川 vs滑川総合 ○20-0
8月23日 会場：秩父文体 vs本庄第一 ×48-90
8月24日 会場：秩父文化 vs成徳深谷 ○77-53 (5位)
・新人大大会北部支部予選
11月13日 会場：桶川西高校 vs秩父高校 ○64-52
11月19日 会場：寄居城北 vs東京農大三 ×45-109 (5位)
県大会出場決定しました。応援よろしく願い
します。

◆女子バスケットボール

・高校総体北部支部予選大会
6月4日～12日 シルクドームなど
2回戦 ○早大本庄89-×熊谷農業41
3回戦 ○早大本庄69-×本庄52
・高校総体埼玉県予選大会
6月19日 越谷市立総合体育館
1回戦 ×早大本庄37-○久喜97
・ウィンターカップ北部支部予選大会
7月16日～24日 滑川総合など
2回戦 ○早大本庄63-×桶川44
3回戦 ×早大本庄47-○松山女子87
この大会で3年生は引退となりました。
・県北選手権大会
8月17日～24日 秩父文化センターなど
2回戦 ○早大本庄74-×熊谷女子54
3回戦 ×早大本庄50-○本庄73
成績 6位 優秀選手賞 牧美羽香
・新人大大会北部支部大会
10月30日～11月23日 シルクドームなど
2回戦 ○早大本庄61-×熊西58
3回戦 ○早大本庄71-×滑川総合55
決勝リーグ ×早大本庄40-○松山女子49
○早大本庄66-×本庄59
○早大本庄67-×本庄東48
成績 準優勝 優秀選手賞 野田千裕

◆陸上競技部

陸上競技部は今夏複数の種目で全国インターハ
イに出場しました。秋には3年生の森田さんが埼
玉県の代表として栃木での国体にも出場、1年生
の松永さんが関東新人大大会で優勝しました。高校
駅伝では、男子チームが創部以来初となる関東高
校駅伝への出場も果たし、部員はもちろん多くの
卒業生や関係者の間に歓喜が溢れました。今年度
は男女共に様々な種目で目覚ましい活躍をしまし
たが、騙ることなく、また楽しみ心を忘れること
なく来シーズンに向けて冬季練習に取り組んでい
きます。

・北関東総体(6/17～20栃木)

男子
200m
4位 森田 陽樹(3) 21" 96 風-0.3m
400m
3位 森田 陽樹(3) 48" 43
1500m
10位 佐藤 広人(2) 4' 00" 59
3000m障害
8位 佐藤 広人(2) 9' 37" 21
5000m競歩
9位 篠原 本(3) 25' 41" 59
走高跳
11位 播 昌樹(3) 1m85
4x100mリレー
5位 早大本庄(滝澤一黛一森一森田) 41" 63

女子

やり投 6位 松永 成美(1) 38m05
全国総体(8/3～7徳島)
男子
200m
予選 森田 陽樹(3) 22" 20 風-0.3m
400m
予選 森田 陽樹(3) 48" 29
4x100mリレー
予選 早大本庄(滝澤一黛一森一森田) 41" 47

女子

やり投 22位 松永 成美(1) 38m36
埼玉県選手権(6/25～26)
男子
4x400mリレー
6位 早大本庄(森一森田一播一阿久澤)
3' 19" 07
関東選手権
男子
4x400mリレー
予選 早大本庄(森一森田一播一阿久澤)
3' 17" 36
準決勝 早大本庄(森一森田一播一阿久澤)
3' 19" 11

国体県北予選会(7/16～17熊谷)

男子

個人13種目16名入賞 リレー2種目入賞
トラック優勝 フィールド5位 総合優勝
女子
個人5種目6名入賞 リレー2種目入賞
トラック6位 総合7位
国体県予選会(8/13上尾)
男子

少年A300m
優勝 森田 陽樹(3) 33" 69
6位 森 羅星(2) 35" 93
少年A3000m
優勝 谷川 航太(1) 9' 24" 47
少年B110mH
4位 五十嵐 浩銘 16" 23 風+0.9m
少年B男子走幅跳
3位 石原 佳篤 6m43 風+0.6m
国民体育大会(10/6～10栃木)

男子

少年A300m
予選 森田 陽樹(3) 33" 96
男女混合4x400mリレー
6位 埼玉県チーム(1走 森田) 3' 25" 23
県北新人選手権(9/10～11熊谷)

男子

個人9種目15名入賞 リレー2種目入賞
トラック優勝 フィールド4位 総合優勝
女子
個人8種目9名入賞 リレー2種目入賞
トラック7位 フィールド5位 総合7位
県新人選手権(9/22～24)

男子

100m
4位 滝澤 悠貴(2) 11" 01 風+0.4m
200m
5位 森 優大(1) 22" 35 風+0.7m
1500m
優勝 佐藤 広人(2) 4' 00" 48
7位 倉本 倫太郎(2) 4' 05" 25
5000m
優勝 佐藤 広人(2) 15' 09" 17
3000mSC
8位 谷川 航太(1) 9' 37" 20
走幅跳
3位 石原 佳篤(1) 6m60 風+1.7m
5位 石塚 悠吾(2) 6m52 風+1.1m
学校対抗
トラック 4位 早大本庄 28点
総合 3位 早大本庄 38点

女子

5000m競歩
5位 白倉 千賀(2) 27' 55" 99
やり投げ
優勝 松永 成美(1) 42m48

関東新人選手権(神奈川10/22～23)

男子

100m
予選 滝澤 悠貴(2) 11" 04 風+1.0m
1500m
予選 倉本 倫太郎(2) 4' 02" 95
5000m
22位 吉岡 龍一(2) 15' 58" 52
走幅跳
12位 石原 佳篤(1) 6m40 風-0.2m

女子

やり投げ
優勝 松永 成美(1)
43m64

U18ジュニアオリンピック
カップ(10/21～23)

男子

800m
予選 佐藤 広人(2)
1' 55" 48

全国高校駅伝埼玉県予選会

男子

6位 早大本庄(佐藤一酒
巻一山田一浦野一谷川一
吉岡一倉本) 2' 14' 38"
女子
19位 早大本庄(飯野一新
薬一伊東一神谷一吉田)
1' 24' 48"
関東高校駅伝
男子
33位 早大本庄(佐藤一吉岡一山田一倉本一谷
川一浦野一酒巻) 2' 12' 11"

◆ワンダーフォーゲル部

日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、
部員20名で活動しています。例年、定例山行と
秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび1泊2日
とし、夏山合宿は主に北アルプスに縦走登山に出
かけます。日帰りでも5～6時間は歩く健脚コー
スを設定しています。今年度は参加者をA・B・2
つのグループに分けて、夏山合宿(尾瀬：大清水
から燧ヶ岳を経て鳩待峠まで)を行うことができ
ました。
今年度を実施した山行は、次の通りです。途中
からの入部も可能です。コロナ禍のなか仲間と山
を歩きながら、気分をリフレッシュしてみませんか？
4/3 堂平山
5/3 武甲山
5/29 榛名山(榛名湖から伊香保神社まで)
谷川岳(天神尾根)
8/1 夏山合宿 尾瀬Aグループ
8/28-29 夏山合宿 尾瀬Bグループ
丸山
11/13-14 秋山合宿 大菩薩嶺(中止)



◆映画部

NPO法人映画甲子園主催「高校生のためのeiga
worldcup2022」合格作品に選出・脚本賞にノミネート
映像作品名『あの頃、私たちは教室で』
＊作品は「高校生のためのeiga worldcup2022」
のHPから視聴することが出来ます。

◆自転車部

高体連自転車競技ロードレース新人戦県大会
10/25 群馬サイクルスポーツセンター
第7位 細谷幹大(2A)

◆プラスバンド部

大会名：第63回埼玉県吹奏楽コンクール
A組地区大会(主催：吹奏楽連盟)
開催日：2022年8月5日(日)
開催場所：さいたま市文化センター
成 績：銅賞

大会名：第8回中学校・高校生アンサンブルコン
テスト(主催：吹奏楽教育協会)

開催日：2022年11月6日(日)
開催場所：プラザウエスト
①クラリネット五重奏(銅賞)
演奏曲：ミニチュア・タウン
(石毛里佳)
出場者：麦倉颯さん(1-B)、
後藤咲輝さん(2-F)、牛窪真
希さん(2-G)、長谷部宙さん
(2-D)、江頭志駿さん(2-C)



②サクソフォーン五重奏(銅賞)

演奏曲：ブルー・ダスク(江
原大介)
出場者：柿澤哲史さん(2-C)、
丸山楽人さん(1-D)、松岡沙
耶さん(1-C)、中間莉心さん
(2-B)、釘宮直希さん(2-G)



③金管八重奏(銅賞)

演奏曲：文明開化の
鐘(高橋宏樹)
出場者：堀ノ上碧人
さん(2-F)、多田脩
平さん(2-H)、平野
晃紀さん(2-D)、吉
富 恵梨さん(2-C)、
末次乃衣さん(2-F)、塩路莉菜さん(1-F)、泉咲
良さん(2-B)、瀬口怜世さん(2-A)



大会名：第46回埼玉県アンサンブルコンテスト地
区大会(主催：吹奏楽連盟)

開催日：2022年11月20日(日)
開催場所：久喜総合文化会館

①フルート三重奏(金賞)

演奏曲：雪灯りの幻想(福島弘和)
出場者：竹波美里さん(2-F)、森美遥さん(1-D)、
高橋美織さん(1-E)

②打楽器五重奏(金賞)

演奏曲：水面に射す紅き影の波紋(山澤洋之)
出場者：長坂亮吾さん(2-D)、阿部直実さん(1-A)、
石渡拓実さん(2-E)、藤井優香さん(1-B)、原芳
歩さん(2-H)



大会名：中学生・高校生のための第19回日本管打
楽器ソロ・コンテスト予選(主催：東邦音楽大学)

開催日：10月23日(日)、11月3日(祝)
開催場所：東邦音楽大学

①マリンバ独奏

(A評価：本選出場決定)
演奏曲：プリズン～ソロ・マ
リンバのための～(安住圭子)
出場者：長坂亮吾さん(2-D)



②バリトンサクソ独奏

(A評価：本選出場決定)
演奏曲：「フェュージョン組曲」
よりI、II(C.マクマイケル)
出場者：釘宮直希さん(2-G)、
小林隼士さん(2-H)



◆政治経済部

・第16回 全日本高校模擬国連大会
本選出場(11/12-13)
塚原・鈴木
9月に行われた予選会を通過し、国連大学本部
で実施された本選に出場しました。
今年度の議題は「多国籍企業及び社会政策に関す
る原則の三者宣言」(ILO)で、塚原・鈴木はアルジ
ェリア大使を務め、決議の採択に貢献しました。

◆囲碁将棋部

2年B組 吉田泰喜
埼玉県予選を見事に勝ち抜き、2022年8月4日
に日本棋院東京本院で行われた第46回文部科学
大臣杯 全国高校囲碁選手権大会 全国大会に出
場しました。



◆フェンシング

<2B 板橋香葉>
9月8日～10日にかけて東京都の駒沢体育館で
行われた全日本フェンシング選手権大会に、女子
サーブルの部で出場しました。板橋さんは、この
後、12月にドイツとポーランドで行われるジュ
ニアワールドカップへの出場も決まっています。
<2G 沼田美咲>
9月10日に東京都の駒沢体育館で行われた全日
本フェンシング選手権大会に、女子フルーレの部
で出場しました。また、10月3日、4日に行われま
した「とちぎ国体 フェンシング少年女子フルー
レの部」にて東京都代表として出場し、優勝しま
した。

◆第69回 国際理解・国際協力のための高校生の
主張コンクール

公益財団法人 日本国際連合協会会長賞
2年C組 佐々木 結
演題：人権には幅広い定義があり、様々な権
利がある。国際社会が直面する課題が
多様化する中で、国連が特に取り組ん
でいくべき人権の分野は何か？
ーイスラム教徒が抱える生きづらさー
※2023年の春休み期間中に、ニューヨーク国
連本部にて研修を受ける予定